

才2表 マカジキ漁獲量

単位：トン

年別 水揚港	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
波浮港	43	46	38	100	157	194	164	68	52	103	25	26	69	18	166	29
伊豆下田港	—	—	—	—	108	132	108	62	46	100	29	—	—	—	—	—

注 伊豆下田港の一印は未調査

変動により、その漁況も著しく変動する。海況と漁況の関係については、種々検討しなければならない最も重要な問題であるが、時間的關係もあり、今後充分検討し、稿を改めて報告する予定である。

漁場形成の条件として概念的には春季黒潮流軸が接岸し、三宅、御蔵島近海を流去し、この近海に潮境が形成されることが才一条件と考えられる。38年、43年の如く黒潮流軸が南偏し、伊豆諸島全域が冷水域におくられる場合は不漁年と考えられる。

以上今春伊豆諸島近海における海況と漁況について、その概要を記述したが、総括としては、38年春季の異常冷水には及ばないまでも、38年に近い冷水年であることには間違いない。38年には3月下旬から回復しているが、本年は2月以降現在まで低水温の状態を持続しており、何時海況が回復するかその予測が困難である。伊豆諸島における漁況にしても銭州漁場のサバの好漁は別として、ハマトビウオ、ムロアジ、カジキ、底魚類等、伊豆諸島の重要漁業の大半が、今春の冷水により全くの不振に終つたことは、今後の伊豆諸島漁業経営に大きな打撃を与えたことは確かである。

6 43年冬春季における相模湾の海況・漁況

中田尚宏（神奈川県水産試験場）

1) ま え が き

相模湾の海況は伊豆諸島近海を流れる黒潮並びに相模湾内に流入する黒潮分枝の勢力の消長に大きく左右される。今年冬春における相模湾の海況の季節的周期変化が若干異常なので、沿岸定線調査結果から表面水温経過と、2・3の漁況の特徴を述べる。

2) 結果の要約

表面水温を見ると、1月は14～16℃で平年より0.5℃高いが、1月下旬の黒潮流軸の南下に伴ない2月は13～15℃で平年より1℃低くなり、3月には12～14℃で平年より1.5℃低くなつた。しかし、3月下旬に黒潮流軸の一時的北偏があつたため、4月は13～16℃で平年より1℃低目と若干低温化は弱まつたが、昇温期の5月も15～17℃と湾内に16℃台の水

域が拡がり、湾奥で1~3℃、相模灘で2~5℃それぞれ平年より低い分布を示した。

以上表面水温経過を見てきたが、冬季急激に降温した相模湾水は昇温期になつても大きな昇温は見られない。例年沖合から暖水流入が見られ相模灘は高水温域となるが、今年5月は湾内全体が16℃台で、相模灘は平年より2~5℃低温であつた。

一方、漁況の方を見ると、三浦半島周辺のスルメイカ漁は例年、周年操業で5月より本格的漁獲が始まるが、今年は1~3月に全く出漁船が見られず、4月中旬になり若干出漁船があつた。またキンメダイは1~4月の漁獲量を見ると昨年同期のほぼ半分位にとどまつたが、同じ一本釣のメダイは3月中旬より好漁となつて、5月中旬まで続き、近年にない好漁であつた。なお、伊豆諸島の銭州漁場におけるサバ漁では、1~5月まで1~2℃低温であつたが、漁獲には影響があらわれなかつた。

7 関東近海における68年冬春季海況の二三の特徴

— 豆南・房総海域の黒潮を中心として —

藤森 完（東海区水産研究所）

1) ま え が き

1968年の異常冷水現象以後、日本近海では魚群の生活圏の南北交換が起つたらしく、道東・三陸沿岸で南方系暖水魚であるゴマサバ、カンパチ、メダイ（1966、67年）などが漁獲されたりする反面、千葉県以南の海域でマダラ、スケソウダラ（1968年）、駿河湾でオヒョウ（1967年）などの北方系冷水種が見出されたりすることが報告されている。また産業的にみて重要な浮魚類の分布域・漁況の変化に関しては、1968年冬春季には遠州灘沿岸部のカタクチシラスの漁獲の極度の不振、駿河湾の餌イワシの不漁、豆南海域における春トビウオの出現の遅れ、カツオの回遊経路の沖側への移動（4月）など、1963年・1965年ほどではないが、かなりの変異が起つている。

これら一連の現象のたとごとくは、必ずしも非生物的環境条件の変化とただちに結び付くものではないが、或るものには密接な対応関係があり、この意味でとくに黒潮を中心とした海況について、1968年冬春季の状態を明らかにしておく必要がある。また、異常冷水以後の近年の平均的パターンをそれより過去の長期変動の中で歴史的な位置付けを行なうことも、これと並んで重要であるが、ここではそれに触れない。

2) 水塊配置の概要

1968年3~5月における黒潮流軸の変動は才1図に見られるとおりでである。遠州灘では3~5月の平均黒潮流軸は冬季（67年12月~68年2月）よりさらに変動が小さくなり、伊豆列島線では約20哩南偏したが、流軸の標準偏差は冬季よりやや小さくなつている。3~5月に